

# 阿波寄合窯跡 (あばよりやすかまあと)

所在地：稲敷市神宮寺 1272  
 調査期間：令和2年7月1日～10月31日  
 調査面積：1,511㎡  
 委託者：茨城県竜ヶ崎工事事務所  
 調査原因：一般国道125号線桜川バイパス整備事業  
 調査機関：公益財団法人茨城県教育財団(稲敷事務所)  
 Tel: 029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

## 遺跡の概要

阿波寄合窯跡は、稲敷市東部(旧桜川村)、野田奈川から西に延びる谷に面した台地の斜面部に立地しています。今回の調査では、東斜面と南西斜面で2基の窯跡を確認しました。多量の須恵器のほか、瓦も出土し、平安時代(約1,200年前)の窯跡(窖窯)であることが明らかになりました。

当遺跡の西約1kmには、古代の寺跡と思われる塔の前廃寺や、馬場尻穴かまど跡・町山穴かまど跡などが所在しています。また、谷の対岸に位置する幸田・幸田台遺跡では、大規模な集落跡が確認されています。



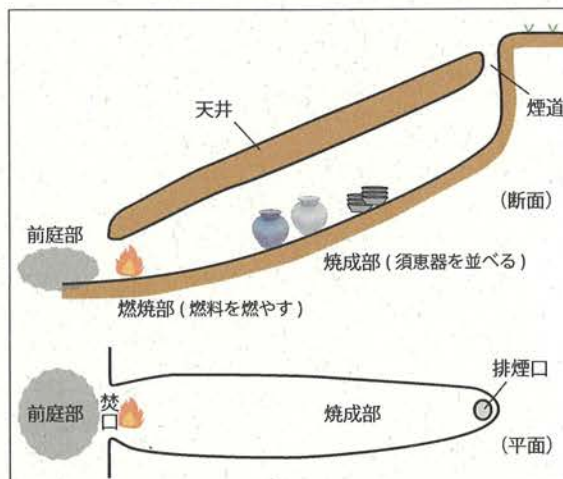
遺跡位置図(国土地理院地図に加筆)

## 調査の成果

今回確認した2基の窯跡は、いずれも須恵器を焼いた窯で、平安時代の初め頃に操業していたものと考えられます。

稲敷市内の幸田・幸田台遺跡や柏木遺跡、薬師後遺跡などの集落遺跡の調査では、多量の須恵器が出土しました。これらの須恵器は、産地不明のものが多く、以前から、同区に須恵器窯の存在が想定されていました。今回の調査で、当地に須恵器窯の存在が明らかになったこと、ここで焼かれた須恵器を検討することにより、供給先や流通を考えることができることは大きな成果です。

また、調査区内からは瓦も出土しています。近くに瓦窯が存在する可能性があり、塔の前廃寺との関係が注目されます。



古代の窖窯イメージ図



調査前の遺跡の状況(西から撮影)



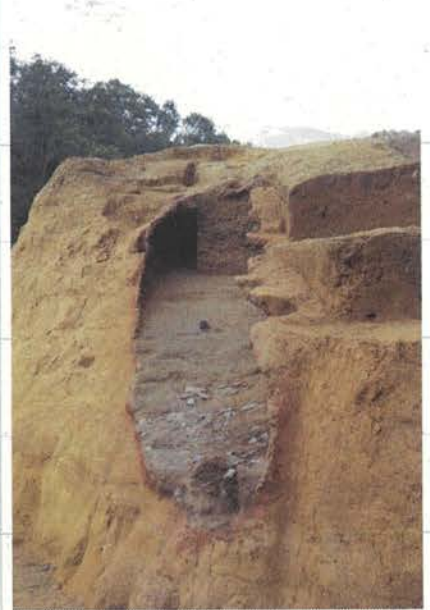
1号窯



2号窯前庭部の土層断面

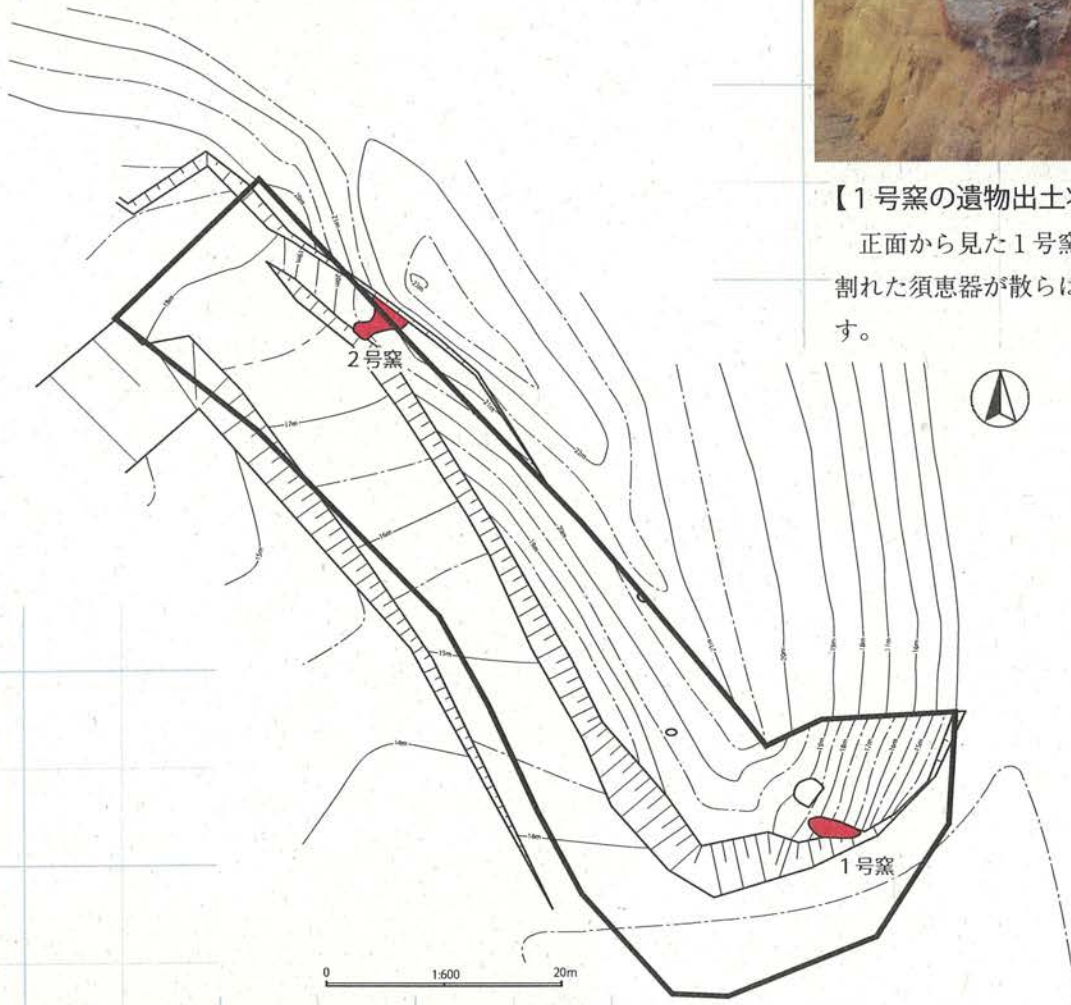
【2号窯の調査状況】

窯本体は調査区外に延びています。灰原が残っていないため、前庭部から焚口にかけての調査となりました。須恵器の坏や盤、甕などの器種のほか、ごく少量の瓦も出土しました。



【1号窯の遺物出土状況】

正面から見た1号窯。手前側に割れた須恵器が散らばっています。



【1号窯】

焼成部から煙道が遺存していました。前庭部や灰原などは残っていません。窯内部に残された遺物は極めて少なく、床面に近い高さで崩落した天井（左の写真の赤線）が確認できることから、焼き上げた製品を窯から取り出して間もなく天井が落ちたものと思われます。

この資料は調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。引用・掲載はご遠慮願います。